

# 滅びの法則：道徳的墮落

## ——ペドフィリア文化とサタン崇拝

Greatchain

2017/9/26

これまでこの呼び方を、やや躊躇していたが、「ペドフィリア文化」とははっきり言えること、いかにこれが、米英や西側諸国の各界の上層部（指導層）に、蔓延しているかが、はっきりわかってきた。アレックス・ジョーンズは、「ペドフィリア帝国」と言っていた。（因みに、ペドフィリアはその犯罪行為、ペドファイルは犯罪者。）それがどんなものか、この聖職者が一例である。<http://www.neonnettle.com/features/891-pedophile-priest-with-hiv-who-raped-30-children-forgiven-by-church>（このカトリック僧は、5歳から10歳の少女を30人近く強姦したが、罰せられることはなかった。）その他、ここ数日の間に急いで翻訳紹介した、ハリウッドや、音楽業界や、番組を潰された政界大物の例（名前はわからない）を読んでみていただきたい。ほんの数例だが、そのすさまじさが想像できる。

いったい、こういうことが歴史上あったのだろうか？ 古代ローマなど、文明が滅びるときには、性の乱れが原因だったとはよく言われる。こんなことは歴史上いくらでもあった、と歴史家は言うかもしれない。しかしそれらは、特にペドフィリアだったのだろうか？ 私には、今起こっていることは特別のことにように思える。ペドファイルという異常犯罪者、または犯罪者集団は、いつの時代にもいたであろう。しかしそれが、現在のように、各界の上層部に、子供取引のネットワークとして、存在したことはなかったのではないだろうか？ 私はこの時代を、子供の受難の時代として捉えるべきだと思う。

そう考えて、9・11以来の中東の侵略戦争を見ると、犠牲者は子供が中心ではないだろうか？ イラクへの通商禁止という制裁で大量に犠牲になったのは、子供だと言われる。（その主たる責任者と言われる、元英首相トニー・ブレアは、なんと慈善団体「セイブ・ザ・チルドレン」から功労賞を与えられた！）いつだったか、はっきり覚えていないが、NHKニュースで「どうも子供を狙っているようです」と言ったのが、耳にこびりついている（その後、二度と同じことは言わなかった）。ドストエフスキーは、汚れた大人はともかくとして、子供を残酷に殺すことだけは、どうしても許せない、そんなことを許す神が許せないと言った、というより叫んだ。——今、それが起こっている。

ロシアのプーチン大統領は、政界のペドファイルたちを追放すべきだ、とトランプ大統領に

言った。あなたがやらなければ私がやる（名前を公表する）と言った。彼は、敵を滅ぼすというより、この「ペドフィリア文化」と、その根底にあるサタン崇拝が、世界に及ぼす影響、その感染力を怖れているのである。犯罪者は勝手に滅びるがよい、と彼は言わない。彼は常に世界を考えている。<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170826.pdf> わが国の児童虐待の報告件数は、上がる一方のようである。これが全く無関係とは言えないのではないだろうか。

今、世界で起こっていることの本質は、単なる地上の戦争ではない。それは善悪、正邪の戦争、霊的次元の戦争であって、この地上の戦争はその代理戦争と考えるべきである。旧約聖書の「ヨブ記」のサタンは、神に許可を得て、あらゆる苦難をヨブに与えるが、ついにヨブは屈しなかった。心の中心が屈しない限り、外からの攻撃は無効だった。今、同じようなことが起こっている。サタンにヨブを屈服させる方法は、実はあった。それはペドフィリアを教えることである。世界中の偉い人がみなやっている、やっていいんだよ、難しいと思えば合法化すればいいのだ、合意年齢を7歳にするとか——。もし、これにヨブが騙されていれば、この勝負はサタンの勝ちだった。今、我々は同じ試練を受けている。

ペドフィリアは、加害者・被害者をともに滅ぼす、悪魔にとっては絶好の道具である。神に復讐するためには、これ以上の兵器はないだろう。ペドファイルたちは、これを、あたかも特権階級の「名誉の印のように見せびらかしている」とケイティ・ペリーは言っている。<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170824.pdf> ——これはどう考えても、神の創った人間を滅ぼすためのサタンの計略であるが、そのサタンを生きる力にする者たちがいるのである。これが **Satanism** である。人を殺した死骸の山の上に、繁栄を築くことはできない、と普通は考える。しかしそう考えない者たちがいる。この場合、死骸どころではない。欲望以外に理由もなく、最も純粹無垢な人間（子供）に与えた一生消えない苦しみを、食って繁栄することができる、と考える者たちがいるのである。

わが国を含めた西側世界の主流メディアでは、指導者クラスのペドフィリアなど「フェイク・ニュース」であって、とんでもないことになっている。プーチン大統領が、世界への彼らの影響を懸念して、西側世界に真剣に警告をしても、無視されるか、逆に攻撃されるだけであろう。彼は、自分の国に入ってくる危険もあると言っている。よいことは広がらないが、悪いことは広がる。彼が、「ヴァルダイ国際討論クラブ」という恒例の大会で読んだ演説「西洋諸国の道徳的危機について」を、もし日本の新聞に掲載することができれば、どれだけ日本人が感動し目を覚ますかしれないが、そんなことは起こらないだろう。

ところで、我々がブログ記事や学術論文などを書くとき、キーワード（タグと呼ばれる）をいくつか付けて、そのテーマがおよそ何であるかを示すようにする習慣がある。今の世界情

勢を論ずるとき、いくつか不可欠のキーワードがある。ペドフィリア、サタン信仰(Satanism)はたしかにそこに入る。そのほかに、New World Order、イルミナティ、深層国家 (Deep State)、ニセ旗 (false flag)、自作自演 (inside job) などがある。ご存じのように、これらの語やフレーズは、主流メディアではすべてタブーになっている。しかし、プーチン大統領の演説には、そのほとんどが出てくる。彼がいかにかに現実に基づいて話をしているか、逆に、新聞やテレビがいかにかに空疎な話をしているかを、示すものである。